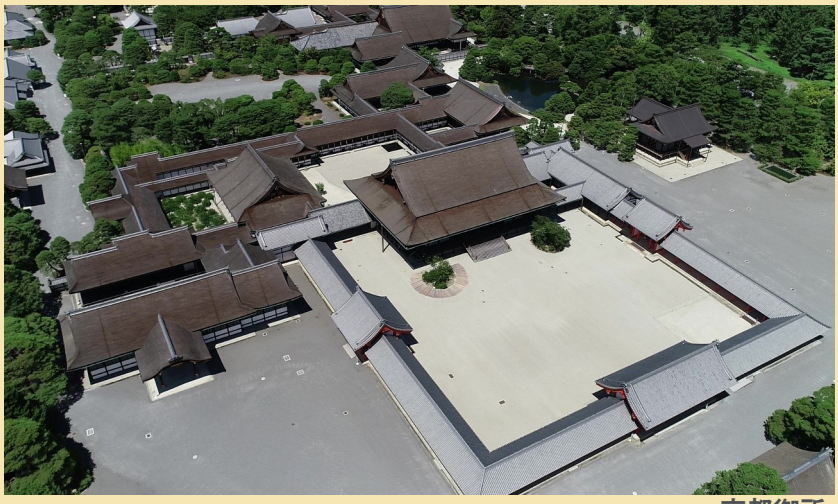
# 《京都》御所と離宮の栞（しおり）　～其の二十二～

## ご挨拶

「《京都》御所と離宮の栞」は平成24年の「其の一」を皮切りに，京都の御所・離宮にみられる古来の宮廷文化を国民の皆様へお届けすることを目的として「其の二十一」まで発行してきました。

令和の時代を迎え，より一層充実した内容を目指し，今後も皇室文化，宮廷文化をより分かりやすく紹介できるよう努めて参ります。また，参観に来られた方々からのご照会等を参考に特集記事を制作しております。建築物や障壁画，庭園にみられる優美で気品あふれる姿，時にはユニークな意匠もお楽しみいただければ，幸いです。



京都御所

## 京都仙洞御所・京都大宮御所について（前編）

本年は，御代替わりに関係する儀式等が行われています。今回と次回は，過去大嘗祭が行われた京都仙洞御所，および天皇皇后両陛下，上皇上皇后両陛下がご使用になられている京都大宮御所を２回にわたり特集したいと思います。

### 概要と歴史

京都仙洞御所，京都大宮御所は，京都御所の南東に位置し，その北側には，京都迎賓館があります。京都御所と同じく，築地塀に囲まれ，その西側には，京都仙洞御所の正門（写真：左下）と京都大宮御所の正門を見ることができます。

現在，京都仙洞御所は，優雅な回遊式庭園（写真：右下）として，京都大宮御所は，天皇皇后両陛下や上皇上皇后両陛下の行幸啓時の御宿泊所として用いられており，またかつては，上皇や皇太后のお住まいとして用いられていた施設です。

京都仙洞御所正門

京都仙洞御所庭園北池　観

「仙洞」とは仙人の住居という意味を持ち，「仙洞御所」は，譲位された天皇（上皇）のお住まい，「大宮御所」は皇太后のお住まいとなり，これらの場所は，古くは一定していませんでした。

現在の場所に仙洞御所が設けられたのは寛永7年（1630）で，後水尾天皇が上皇になられた際に造営されたものが最初となります。江戸時代初期から後期にかけて，「仙洞御所」には6方の上皇（後水尾・霊元・中御門・桜町・後桜町・光格の各上皇）が，「大宮御所」には4方（東福門院・新上西門院・青綺門院・新清和院）の皇太后または女院（皇后・皇太后などで院号を賜った方。その場合は女院御所と呼ばれた）がそれぞれお住みになりました。

しかし，京都御所と同じく度重なる火災により，焼失と再建が繰り返され，後水尾上皇に至っては，御存命中に3回もの火災に見舞われています。仙洞御所は，嘉永7年（1854）に起きた大火によって，醒花亭（写真：左下）を残して焼失しており，これ以降，居住される上皇がおられないために御殿は再建されず，庭園だけがその面影を残しています。

近代に入り，大正天皇，昭和天皇の大嘗祭では，御殿の跡地が大嘗宮として用いられた他，明治時代に，京都博覧会の会場として用いられることもありました。

一方，大宮御所は，九条夙子（英照皇太后）のために慶応3年（1867）から再建が行われ，翌年皇太后となった夙子が，明治2年（1869）よりお住みになっています。その後，明治5年（1872）に英照皇太后が東京に移られた後は，御常御殿（写真：右上）のみが現存しており，天皇皇后両陛下や上皇上皇后両陛下の行幸啓時の御宿泊所として用いられていることに加え，英国のエリザベス女王など外国貴賓の御宿泊所としても使用された実績があります。

京都大宮御所　御常御殿　観

## 京都での大嘗祭

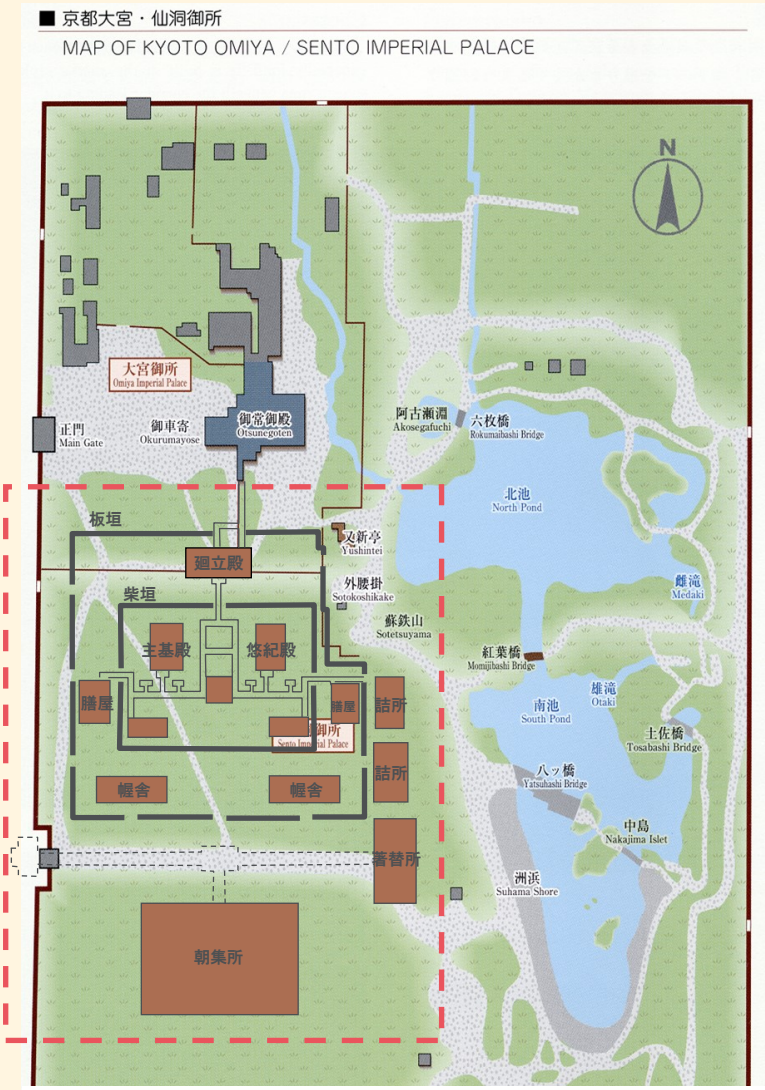
前述のとおり，大正天皇，昭和天皇が即位された際の大嘗祭が，江戸時代にあった仙洞御所旧御殿の跡地（写真：右下）を用いて行われ，「大嘗宮」が造営されています。

「大嘗祭」とは，皇位の継承に関わる儀式の一つで，天皇が初めて新穀を皇祖及び天神地祇に供えられ，自らも召し上がり，国家・国民のためにその安寧と五穀豊穣などを感謝し祈念される儀式で，特別な祭場として大嘗宮が造営されます。

古来，朝堂院（八省院）で行われていましたが，朝堂院が荒廃した後は，紫宸殿の南庭が使用されるようになりました。

醒花亭　観

仙洞御所旧御殿の跡地




『昭和大礼要録』を参考とした大嘗宮等イメージ図

（一部省略）

大嘗宮の一部（主基殿）

宮内庁京都事務所所蔵ガラス乾板（昭和大礼）

大嘗宮一般拝観の様子

宮内庁京都事務所所蔵ガラス乾板（昭和大礼）

大嘗宮には，柴垣を巡らせた内側の東側に悠紀（ゆき）殿（でん），西側に主基殿（すきでん）を建て，外側には天皇が身を清められる為の廻立殿（かいりゅうでん）や参列者の為の握舎（あくしゃ）など大小30余の建物が設けられます。悠紀・主基とは神饌に供するための穀物を用意する地域のことを言い，現在では東日本を悠紀地方，西日本を主基地方に分け，斎田点定の儀によって決定され，それぞれから新穀が献上されます。天皇は悠紀殿，主基殿それぞれにおいて献上された新穀を捧げ，自らも新穀をお召し上がりになります。儀式終了後は，大正・昭和ともに一定期間，国民に公開され，解体の際には，一部の建物を京都府や京都市内の学校等に下賜されています。平成の大嘗宮は皇居東御苑に造営されており，令和の大嘗祭においても同様です。

次回は後編として京都仙洞御所の庭園の変遷を中心に特集したいと思います。

南池に架かる八つ橋　観

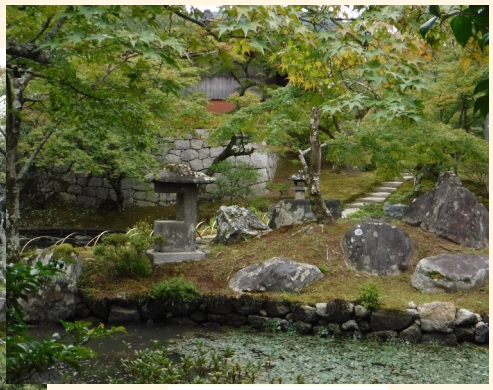
文化年間庭園絵図

# 苑路を照らす燈籠（修学院離宮）

栞「其の十五」で桂離宮の燈籠を紹介しましたが，今回は修学院離宮の燈籠を紹介します。修学院離宮は江戸時代初期に，後水尾上皇が造営された山荘です。造営当初は下離宮と上離宮のみでしたが，現在，下離宮，中離宮，上離宮の３つの離宮からなっており，それぞれの御庭の規模や姿に合わせて燈籠が１０基配置されています。これらの燈籠は，様々な形状をしており，電灯の無い時代には，機能的な面においても重要であったことはもちろん，庭園の一部としてもその景観を構成する重要な要素であったことが見受けられます。

上離宮景色　観

中離宮景色　観



下離宮景色　観

## 下離宮の燈籠

下離宮には，袖形燈籠（写真：下段左）があります。非常に珍しい形をしており，別名「鰐口燈籠」とも呼ばれています。基礎と笠の間の火袋・中台・竿を兼ねたものをコの字型にくり抜き，その天井の掛け金具に釣燈籠を吊して使用します。御所・離宮では修学院離宮でのみ見ることができる燈籠となっています。それ以外にも，朝鮮燈籠（写真：下段中）や櫓形燈籠（写真：下段右）が配置されています。朝鮮燈籠は，竿や中台が大きくがっちりとした印象を受ける燈籠ですが，傘の上にある宝珠が切籠型（立方体の角を切り取った形状）になっており，独特な雰囲気があります。櫓形燈籠は，火袋に月形，丸，二つの並んだ方形の窓がデザインされ，笠の形が入母屋造となっているのが特徴です。

a　袖形燈籠　観

b　朝鮮燈籠　観

c　櫓形燈籠　観

## 中離宮の燈籠

中離宮には生込(いけこみ)燈籠（写真：上段左）があります。竿を直接地面に埋め込んでいる燈籠で一見シンプルに見えますが，地面に埋め込まれている竿の形が単純な角柱ではなく地面に向かっていくほど太くなっているのが特徴です。楽只軒(らくしけん)前庭（写真：上段右）では，石橋を渡る人のために，火袋が輪形の特徴的な燈籠がひっそりと建てられています。

d　生込燈籠（客殿前庭）　観

e　楽只軒前庭の燈籠　観

## 上離宮の燈籠

上離宮には，山寺燈籠（写真：下段左）や崩家形(くずやがた)燈籠（写真：下段右）などがあります。山寺燈籠は隣雲亭(りんうんてい)の側にあり，火袋や笠は丸みを帯びた形で，それに合わすかのように四脚の脚が開いており，面白いデザインの燈籠です。また，崩家形燈籠は，止々斎(ししさい)跡地の前にある浴龍池(よくりゅうち)の御舟着の近くに配置され，笠が屋根のような形をしており，「舟見燈籠」と呼ばれることもあったようで，こういった名称から当時の情景を思い浮かべることができます。

上皇がお越しになっていた当時は燈籠に火を入れ苑路を照らし，幻想的な風景を楽しまれていたことでしょう。これらの他にも魅力的な燈籠が配置されていますので是非，修学院離宮の参観にお越しいただき実物をご覧になっていただきたく思います。

f　山寺燈籠　観

g　崩家形燈籠　観

## 燈籠配置図

修学院離宮に配置されている燈籠の位置を示しました。今回紹介した燈籠は赤丸（a～g），紹介することができなかった燈籠は青丸となります。

下離宮
- ❶御輿寄
- ❷寿月観

中離宮
- ❸楽只軒
- ❹客殿
- ❺松並木

上離宮
- ❻大刈込
- ❼隣雲亭
- ❽万松塢
- ❾千歳橋
- ❿楓橋
- ⓫窮邃亭
- ⓬土橋
- ⓭御舟着
- ⓮西浜

# 花ごよみ　～紅葉～

御所・離宮には多種多様な樹木や花々が植えられています。季節毎に可憐で美しい花を咲かせ，新緑や紅葉など，四季折々の違った表情を見ることができます。花ごよみのコーナーでは，そんな御所・離宮の美しさを織りなす樹木や花々を順次紹介していきたいと思います。

京都仙洞御所　紅葉橋（中央）を望む　観

## 各所の紅葉

御所・離宮には秋を彩るイロハモミジやオオモミジが植えられていますが，特に，京都仙洞御所と桂離宮にはモミジが多数植えられている「紅葉山」があります。さらに，京都仙洞御所には北池と南池を結ぶ堀割に架けられた「紅葉橋」（栞其の三）と呼ばれる土橋があり，その名にたがわず非常に美しい紅葉が広がっています。その年の気候によって色づき始める時期や見頃に変化がありますが，例年11月下旬から12月上旬にかけて見頃を迎えます。また，見頃を迎えた紅葉だけではなく，木から散り敷いた紅葉も，自然の芸術作品として参観者の方々を楽しませています。

京都御所　御内庭　通

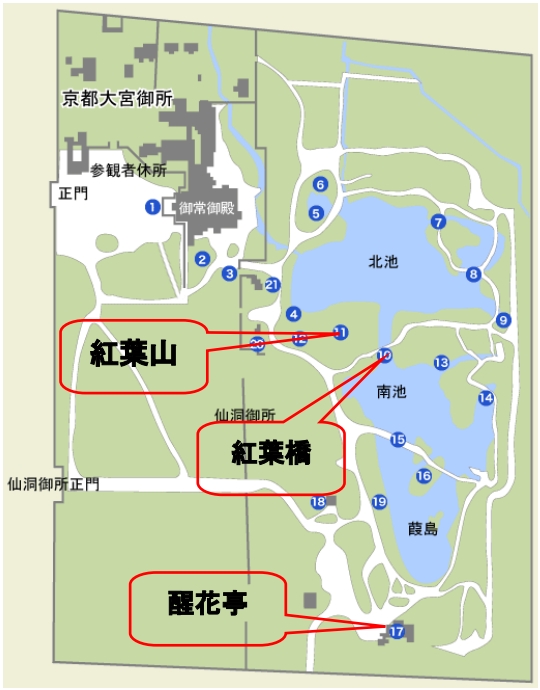
修学院離宮　浴龍池北西から千歳橋を望む　観

桂離宮　表門から御幸門を望む　観

## 京都御所案内図

1 御車寄
2 諸大夫の間
3 新御車寄
4 回廊
5 春興殿
6 紫宸殿
7 南庭
8 清涼殿
9 小御所
10 御学問所
11 蹴鞠の庭
12 御常御殿
13 御内庭
14 御三間
15 迎春
16 御涼所
17 聴雪
18 御花御殿
19 皇后宮常御殿
20 若宮御殿
21 姫宮御殿
22 飛香舎
23 参内殿
24 参観者休所

## 京都仙洞御所・京都大宮御所案内




1 京都大宮御所御車寄
2 京都大宮御所御常御殿南庭
3 御庭口
4 北池の舟着
5 阿古瀬淵と六枚橋
6 紀氏遺蹟の石碑
7 土橋
8 石橋
9 雌滝
10 紅葉橋
11 紅葉山
12 蘇鉄山
13 雄滝
14 土佐橋
15 八ツ橋
16 中島
17 醒花亭
18 柿本社
19 洲浜
20 又新亭の外腰掛
21 又新亭

## 修学院離宮（上離宮）案内図

5 松並木
6 大刈込
7 隣雲亭
8 万松塢
9 千歳橋
10 楓橋
11 窮邃亭
12 土橋
13 御舟着
14 西浜

## 桂離宮案内図

1 御幸道
2 外腰掛
3 蘇鉄山
4 洲浜
5 天の橋立
6 石橋
7 松琴亭
8 賞花亭
9 園林堂
10 笑意軒
11 月波楼
12 古書院
13 月見台
14 中書院
15 新御殿
16 住吉の松
17 桂垣
18 穂垣

観マークは，参観でご覧になれます。申込み方法は，　http://sankan.kunaicho.go.jp/　をご覧ください。

通マークは，申込不要の京都御所通年公開でご覧になれます。

詳細は，http://www.kunaicho.go.jp/info/kyototsunen-sks-sankan.htmlをご覧ください。

これまでの「《京都》御所と離宮の栞」については，宮内庁ホームページのこちらからご覧ください。

＜問い合わせ先＞
〒602-8611　京都市上京区京都御苑３　宮内庁京都事務所
代表電話：075-211-1211　参観係直通電話：075-211-1215

其の二十二：令和元年11月15日